

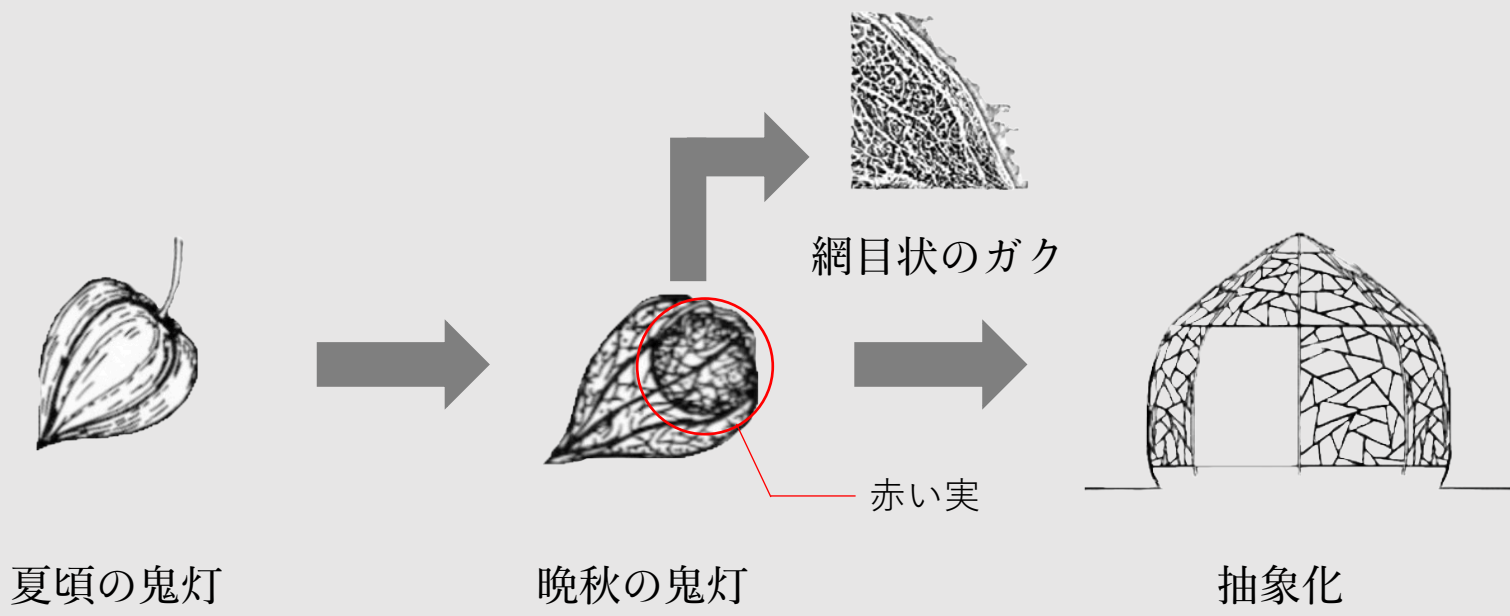
脈

— 人をつなぐ、空間をつなぐ —



鬼灯：夏に赤橙色に熟する果実を、ふくれたガクが包む^①あの姿^②になる。
晩秋になるとガクが網目状になり中の果実が見える姿に変化する。
私たちは秋の鬼灯の姿を取り入れることで、内と外の関係、人と人の繋がりが網目状の脈のように繋がっていくことを期待する。

🍎 ダイアグラム

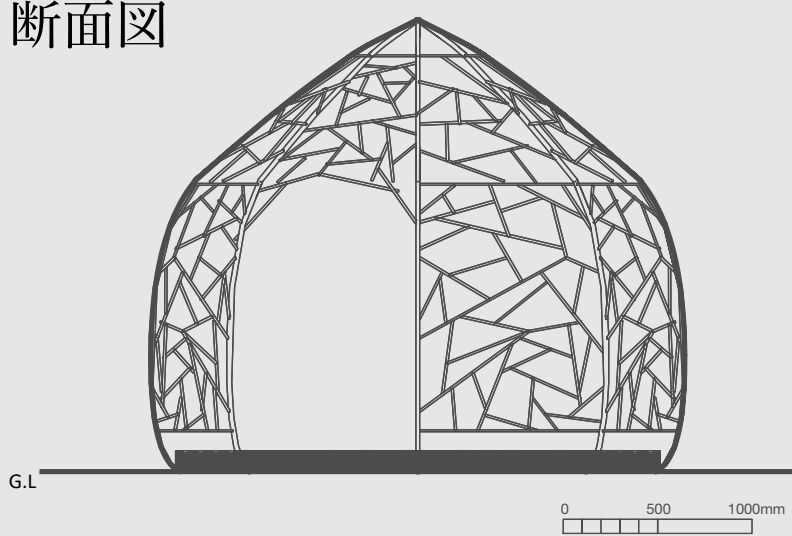


晩秋の網目状になった鬼灯のガクの部分を抽象化し、適度な隙間を作ることで周囲の風景や秋の空が垣間見えるようなカタチにした。

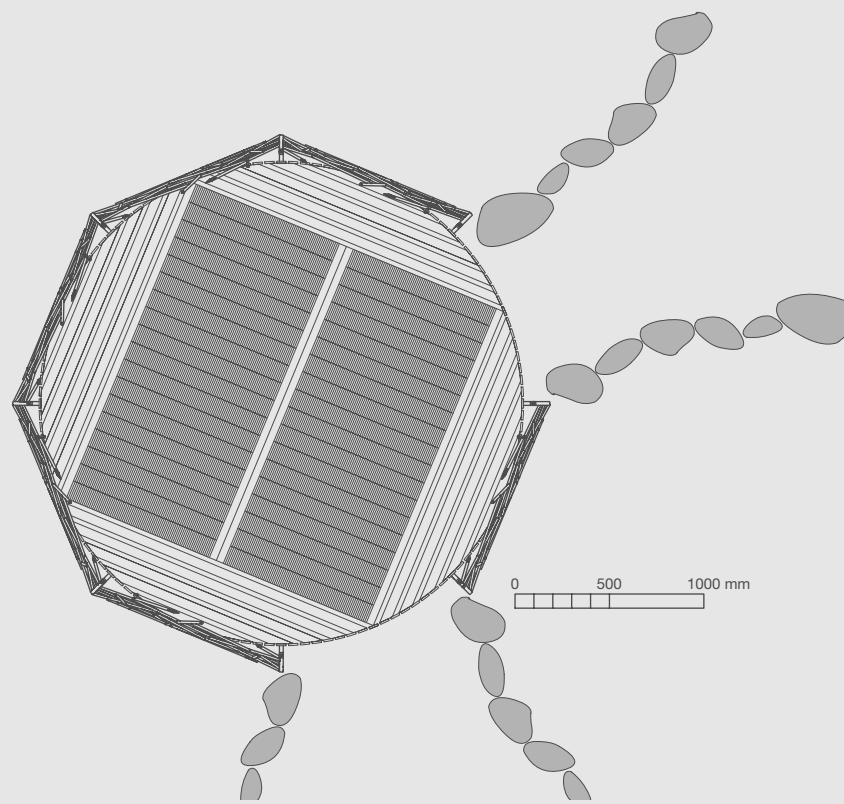
鬼灯の断面と2畳の畳を結ぶと生じるスペースを利用し、フレームと畳を結ぶ空間を作った。

この茶室が使われる時、人が、その空間が鬼灯の実となる。

🍎 断面図



🍎 平面図



鬼灯特有の形状を維持させるために3つのレベルに分けた構造用のフレームをガクの中に紛れ込ませた。

空間内は、2畳の畳の角をなぞって作られた円形の茶室となっている。茶室の畳と鬼灯のフレームとの間に木材を規則的に並べることで畳の規則的な並びとガクの不規則な間を繋ぐ。

茶室と地面には100mmほどのレベル差があり、空間として曖昧なこの茶室に少しばかりの外との境界をもたらしている。

ガク・フレームのテクスチャや茶室は、外界の景色をなるべく邪魔せず溶け込ませるため、木材を中心とした有機的な素材に統一している。

🍎 模型イメージ



脈を介した外の風景を背景として、人との会話に興じる。



葉脈を意識したまま途切らせることで馴染む入り口。



鬼灯のように細い線で空間を外と内に柔らかく分ける。



影が真下に落ちると、より鬼灯本来の形に近い囲われた空間になる。